

外科系医師のための手術に役立つ臨床研究

本多通孝 ● 著

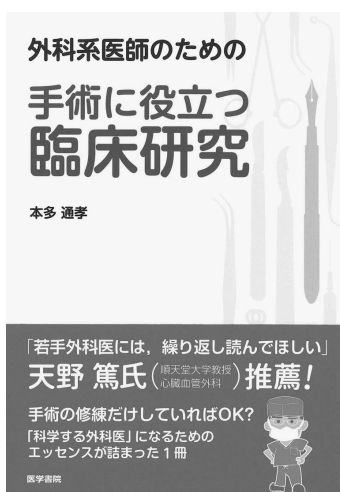
〔評者〕 紺野慎一（福島県立医大教授・整形外科）

従来、大学での医学研究は基礎的な研究が主流だった。テーマは教授から与えられ、それを従来の手法で行うのが常だった。しかし、現在では質の高い臨床研究により、さまざまな疾患の診断や治療の科学的な根拠を明らかにすることが可能となった。臨床研究の質は、研究デザインの質とそのアウトカムが、個人や社会にどの程度大きなインパクトを与えるかにより決まる。質の高い臨床研究を行うことは容易ではない。それを教育する資材は極めて乏しい。本書は外科系医師のための臨床研究を行う教材としては最も優れた本といえる。

1990年代に臨床研究のエビデンスが重要視されるようになり、外科的な疾患に対する診断や治療のエビデンスが求められるようになってきた。本書は、『外科系医師のための手術に役立つ臨床研究』というタイトルである。第一に臨床研究を行う場合、質の高い臨床研究をデザインすることが求められる。本書はそのための手順を初心者にも理解できるように

平易に記述している。1つの手術手技のエビデンスを明らかにすることは簡単ではない。しかし時代がエビデンスを求めている以上、それに応える臨床研究を行うことが、今われわれ外科系医師に求められている。若い医師からベテランの外科医に至るまでぜひ読んでいただきたい1冊である。

治療はもちろんエビデンスがすべてではない。アートも求められる。したがって実際の臨床では必ずしもエビデンスに依存することはない。しかし日常診療で日々さまざまな疑問が浮かんでくる。本当にこの診断や治療は科学的に有効なのだろうか。若い医師には特にその日常の疑問を明らかにできる無限の可能性がある。ぜひこの1冊を利用し、日々の疑問を科学的に証明する努力を惜しまずに行ってもらいたい。本多通孝先生は、福島県立医大低侵襲腫瘍制御学講座教授としてバリバリの臨床家であると同時に、一流の臨床研究を活発に行っている。彼に負けない臨床研究をできる外科医がたくさん育つことを祈念している。



A5・頁244
2017年11月
定価：本体3,500円＋税
[ISBN978-4-260-03259-9]
医学書院 刊